

令和7年4月9日発行

2025★第86号 (1)

事務局だより ● 4月号

さくら特集

とどろき おおの はら ち く

轟・大野原地区コミュニティ

陽春の候、お日様ぽかぽかの陽気が続き爽やかな季節となりました。皆様お元気にお過ごしでしょうか。3/25に開花した桜もまだ残る中、明日4/10は市内小中学校の入学式も行われます。あちこちに色とりどりの花が咲き、晴れの門出に相應しいとてもきれいな春の嬉野です。



不動ふれあい体育館を望む



手入れの行き届いた不動ふれあい広場



轟小学校 ↑

轟子橋からの眺め



岩屋川内ダム

大野原演習場野焼きが行われました

2月23日(日)大野原区、長崎県にまたがる大野原演習場の野焼きが行われました。自衛隊の敷地が主ですが近隣住民として長年、大野原区民の方が応援に参加されています。非常に冷え込んだ中、大変ご苦労様でした。野焼きの結果の一つとして天敵が減ったり、整った環境の下でオオウラギンヒョウモン(蝶)をはじめとした希少生物の生態系が保たれています。



「令和6年度市町社協災害ボランティアセンター設置・運営研修会」に参加しました R7.1.24(金)10～15:30

災害ボランティアセンター運営に必要な視点を学ぶと題した研修会が社協塩田本所(公民館)にて開催され事務局が参加しました。講師は鹿児島県出身(1966年生まれ)、鳥取県日野ボランティアネットワーク代表山下弘彦氏。2000年10月に鳥取県西部地震に遭遇以来、現地を拠点に活動。「鳥取県西部地震展示交流センター」の運営を託され、県内外で地域防災減災活動の取組支援を行い、佐賀豪雨災害や能登半島地震・豪雨他、大規模災害時はボランティアセンター運営支援者派遣の立場で活動されています。この日も能登から作業着での参加で気取らずとても聞きやすいはっきりした発声で半日講習を受けても苦痛ではなく、「今日はいまよくやるのが目的ではありません。失敗を地元を持ち帰り、現場と支援者のパイプ役になって下さい」と言われたのが印象的な方でした。◇ 私はボランティアセンターに登録し、待合所で知らない人と5人組になり浸水家屋の片付けをする役(シミュレーション)でした。こんな時は早くにチームワークが出来上がった方が良いので気軽に隣の人に話しかけすぐに打ち解けました。またマッチング(振り分け)係の社協職員さんは落ち着いた声で話しかけてくれ、こちらも冷静に返事をする事ができました。意見発表では「“ニーズ”・“マッチング”と窓口表示があるがわかりにくい、入口に“総合受付”を置いた方がわかる」などの具体的な指摘の他、同じ班になった小城社協20代職員のお兄さんが「このメンバーでまた活動したいです!」と語ってくれ、若いとは疲れ知らずだなあと頼もしく思いました。また先生の講義で、実際の避難先で人手不足の時「家の飼い猫(か犬)はもうだめだと思いますがどなたか一緒に見に来てもらえませんか」という女性の要望に手を挙げるか?と言う質問をされ、私は反射的に「誰か一緒にいてあげて!」と思い手を挙げてしまいました。我ながら何か身に覚えがあったのでしょうかね?? ◇ 先生曰く、ボランティアは特別に資格を持たなくても“話を聴くこと”だけでもいい、そうです。そういえば昨年受けた認知症サポーター講座でも同じことを聞きました。不安で、黙って寄り添ってもらいたい時ってありますもんね…。これまで人にしたこと、されたこと、思い当たる節が次々と脳裏をよぎる中、今日の研修で得たのはこれでいいのかな?と思いながら、人(や生き物)の心の声を聴かないとなあとしみじみ感じ帰路に着いたのでした。

れんげ、菜の花(ハートマーク♡) 最新情報 7.4.7現在

34号線湯野田セブンイレブン付近から不動地区で菜の花の開花と、れんげの発芽を確認しています。いよいよ本格的に成長します。田んぼのピンクや黄色の景色の変化にご注目下さいね♡

